

# 変化した観るスポーツのあり方

## ～コロナとインターネットが加速させた 「おうち観戦」～

石井優希

新型コロナウイルス感染拡大によって、人数制限、応援制限、時短営業による開演時間の繰り上げなどによりスポーツ人気は低迷していくのではないかと考えられるが、インターネットの普及によってスポーツ配信サイトなどを通して自宅で観戦できるようになり、コロナ禍でのおうち時間を利用して、スポーツ観戦をする人が増えているのではないだろうか。本研究では自宅でスポーツ観戦をすることを「おうち観戦」とし、新型コロナウイルス感染拡大によって、現地観戦が制限される中で映像配信サービスやテレビ中継等を通して「おうち観戦」している人が増えているのではないかについてアンケート等を用いて明らかにしていく。先行研究では、コロナ禍でのスポーツ観戦率は全体的に増加していることが明らかとなっており、新しくスポーツに興味を持つ人が増えていると考えられる。

本研究はインターネットの出現によって変わり始めていたスポーツの見方がコロナ禍によって本格的に変わり始め、スポーツ観戦を行う人が増えたのではないかという仮説を検証するため、Google フォームを利用した web アンケートとして大東文化大学社会学部に所属する計 159 人に配布を行った。その結果、コロナ禍によって今まで現地観戦をしていた人がテレビやインターネットで観戦するようになり、今までテレビ、インターネットで観戦していた人がおうち時間の増加により以前よりも多く観戦するようになったためコロナ禍で新たにスポーツ観戦を始めた人は増えていないのではないかと考えられる。

インターネットの普及とコロナ禍でのおうち時間の増加によって、オリンピックのテレビ中継や配信サービス等を通じてスポーツを認知してもらうことでスポーツに興味を持つ人が増え、スポーツへの関心度は今後高まっていくことが考えられる。